



著者プロフィール

柏原 眠雨 (かしわばら・みんう) 本名 啓一

昭和10年5月東京都生まれ

昭和25年 「青蝶」入会、神葱雨に師事

昭和54年 「風」入会、沢木欣一に師事

平成元年 「きたごち」 創刊主宰

句集に「炎天」「草清水」「露葎」「柏原眠雨 自解150句選」

「柏原眠雨集 自解100句選」

「自註現代俳句シリーズ柏原眠雨集」ほか

俳人協会宮城県支部顧問、国際俳句交流協会理事、日本文藝家協会会員、宮城県俳句協会顧問、宮城県芸術協会参事、宮城県芸術選奨選考委員会委員長、東北大学名誉教授

〈句集『夕雲雀』より転載〉〈2015年9月25日時点〉

『夕雲雀』

(自選15句)

柏原
眠雨

城へ向く仙台駅の松飾
烏雲にひとり遊びの砂場の子
一人づつ流れ窪ませ鮎を釣る
自転車の灯のふらふらと遠蛙
虫の蘭こはさぬほどの遠太鼓
二階より運動会の端見ゆる
夏雲や牧に二つの馬の群
湯の宿の五軒で途切れ小望月
わさわさと杉の花揺り余震の来
避難所に回る爪切夕雲雀
町ひとつ津波に失せて白日傘
裸木の一樹の高し爆心地
汲みにゆく水鉄砲の弾の水
泣き止まぬ子もその母も息白し
町失せて星の増えゆく年の暮